

## 第1回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会 議事録

### 開催概要

日 時	平成27年9月28日(月)午後7時～午後9時
場 所	草加市役所西棟5階 第1・第2会議室
出席者	<p>委員長 清水 義次(株アフタヌーンソサエティ)</p> <p>副委員長 中村 卓(副市長)</p> <p>委員 佐々木 誠(日本工業大学 建築学科)</p> <p>〃 染谷 勝之(有勝建築設計事務所)</p> <p>〃 長谷部健一(税理士法人L&amp;Cアシスト)</p> <p>〃 木村 忠義(株草加不動産)</p> <p>〃 野口 貴史(有恵登屋本店)</p> <p>〃 小野良一郎(株潤製作所)</p> <p>〃 今井 慶子(カフェギャラリー コンバージョン)</p> <p>〃 中山 加奈(株デイジーフレッシュ)</p> <p>〃 上原 美香(ガーゼショップアンジェ)</p> <p>〃 小林 勝治(総合政策部長)</p> <p>〃 曾合 吉雄(自治文化部長)</p> <p>〃 橋本 吉朋(子ども未来部長)</p> <p>〃 前田 明(都市整備部長)</p> <p>〃 黒須 俊之(建設部長)</p> <p>事務局 宮本 恭嗣(株アフタヌーンソサエティ)</p> <p>〃 高橋浩志郎(産業振興課長)</p> <p>〃 工藤 健一(産業振興課課長補佐兼商業係長)</p> <p>〃 夢田 章吾(産業振興課主任)</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あいさつ(副市長)</li> <li>2. 委員紹介</li> <li>3. 委員会の運営及び委員会について(工藤)</li> <li>4. 草加市の現状と課題(夢田)</li> <li>5. そうかりノベーションまちづくり構想の検討に向けて(清水)</li> <li>6. 意見交換</li> </ol>
決定事項	

## 議事内容

### 1. あいさつ

中村 (副市長あいさつ)

- ・本日、リノベーションまちづくりにおいて当事者としてご活躍いただける市民の皆様と市の幹部職員が参集し、また、多くのオブザーバーや傍聴者の方々も遅い時間にもかかわらずお集まりいただき感謝申し上げます。
- ・第四次総合振興計画について9月議会にて議決をいただき、これから20年間の草加市のまちづくりについても方向性を定め新たなスタートをきった。リノベーションまちづくりについても、総合振興計画の趣旨に沿った事業になると考えている。
- ・市長が公約にも掲げている「強いまち」を市民力、行政力、そしてそれらの連携し、草加市全体として「強いまち」を実現していきたい。
- ・リノベーションまちづくりは従来と異なり、市民中心の民間主導で行うことになるとは思うが、それに対してしっかりと行政がサポートしていきたい。
- ・本日はハード、ソフトの両面から部局長が参加している。行政としてのしかるべき役割を果たし、民間をサポートできるようきちんとした体制で臨んでいきたい。

### 2. 委員紹介

事務局 (委員紹介)

### 3. 議 事

清水 (委員長あいさつ)

- ・この場はフラットで立場、年齢に関係なく、草加市のまちづくりを本気で担う人たちが本気で議論をする場である。
- ・自分の意見にこだわらない。議論を進める上で、誰かの意見に触発され出た意見が草加市のためになるものであれば、そこで我々の勝利である。誰かの意見にこだわるのではなく、この場で議論をすることによって、何かの方向性が見つかることが一番いいこと。
- ・全員で議論しながら進めていく場なので、思いついたらなんでも発言すること。小さい意見にこだわらずどんどん発言すること。どんどん議論が活発になるよう、そのような進め方にしていきたい。
- ・まずは草加市の現状について、全員が客観的に把握してから議論を進めたい。事務局より現状と課題について説明してもらいたい。

事務局 (資料「草加市の現状と課題」を元に以下について説明)

- ・人口について
- ・地域コミュニティについて
- ・産業について
- ・旧道沿道エリアの人口について
- ・旧道沿道エリアの地価推移について
- ・旧道沿道エリアの課題について

<平成25年度草加駅東口にぎわい創出調査から浮かび上がった課題>  
個性に欠け、都市空間としての魅力にも欠けている。

地区内の消費は伸び悩んでおり、足元需要の取りこぼしがかえり、住民間の交流の不足や地域コミュニティの弱体化もかえり。

清水 委員長 (資料「不動産オーナーと家守が一緒に行うリノベーションまちづくり」を元に以下について説明)

- ・家守とは何か。
- ・リノベーションまちづくりとは何か。
- ・当委員会の重要なポイントは、今までの絵に描いた餅のような計画を作るのではなく、実現可能な計画を作る委員会で、委員、オブザーバーが主役。
- ・委員には実際に担い手となる不動産オーナー、家守、大学の先生、女性というメンバーで構成している。
- ・構想の中で、実現に向けたプロセスもきちんと考える。そして、それらのうちやれることがあれば、すぐに始めること。行政もその民間の動きにきちんと対応し、先延ばし主義はやめること。
- ・目標設定と数値で計れる実績把握を行っていく。
- ・行政内部で一番大事なことは行政内の横串。課題が複雑に絡み合っていることについてひとつずつでなく、ひとつのプロジェクトで複数の課題を同時に解決することを考える。
- ・構想と実現を近づけるためには、民間の力を活用する。行政は民間の力を発揮させるにはどうしたらいいかを考える。補助金を交付するなど、民間の力を削ぐようなことはしないこと。
- ・この検討委員会の中から、民間主導のプロジェクトを生み出していく。そのプロジェクトは小さいものでも、できることからスピーディに行く。しかも、小さいエリアに集積させていく。その結果3年から5年でまちが変わることが実感できる。
- ・草加市はこのまま放っておくと、マンションだらけになってしまう。地価の下落はエリアの価値が下がっていくということ。

- ・商業地から住宅地に変わることがいいことなのか。
- ・リノベーションまちづくりにおける最初のターゲット層として、草加のまちなかでどんな人たちに住んだり、働いたり、遊んだりしてもらいたいのか検討する。
- ・そのターゲット層に向けて、どんなことを提供したらいいか検討する。
- ・ターゲットとするスモールエリアをどこに設定するかも検討する。起点となるプロジェクトがあることが前提。
- ・リノベーションまちづくりにおいては、不動産オーナー、家守、起業を目指す方、大学の先生と学生など、様々な関わり方ある。
- ・この場では心底思っていることを発言すること。それがそうかりノベーションまちづくり構想を作ることにつながる。頭の中に思いつく今の草加市よりよいまちのイメージを、できるだけ熱く語ってみることが重要。

(意見交換)

野口 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔、六丁目は宿場町の中心だった。昭和20年代頃までは六丁目からバスが発着し、東京まで30分程度で行くことができた。鉄道ができてからは、かなり人の動きが変わってきた。</li> <li>・神明町のあたりについては草加駅と草加松原の結節点として、行政にも神明庵や河合曾良の銅像など力を入れていただいている。</li> <li>・しかし、商業地区ではあるものの、新たに商店ができることはなく、実際は遊休不動産が多くなり、また、商店がなくなったところにマンションの建設などが行われているエリアであり、住居地区に変わりつつある。</li> <li>・自分は酒屋をやっているが、なかなか地域に貢献できていない。</li> <li>・権利関係はわからないが、まち歩きをしてみたところ、六丁目には空き物件があるので、ぜひ六丁目からやっていただきたい。</li> <li>・地域あっての家があるという考え方が強く、それは実際の不動産所有者である親も理解しているところであり、自身の物件の利活用についても理解いただいているところである。</li> <li>・何をどうやるかは具体的に決めているわけではないが、積極的に関わっていきたいので、よろしく願いしたい。</li> </ul>
清水 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早速、最初の発言者から「不動産物件を提供可能」という発言がでた。これは本当にありがたいこと。</li> </ul>
中山 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野口委員から空き物件の話があったが、具体的にどのような空き物件か、情報があれば教えていただきたい。</li> </ul>
野口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先日、旧町の北側を中心にまち歩きをした。権利関係まではわからない</li> </ul>

委員	が、その中で空き物件等を確認した。現在、資料作成中である。
清水 委員長	・実際に使える物件についての情報収集はとても大切。初期段階からの情報収集は継続して行っていく。
長谷部 委員	<p>(資料6を参照しながら説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草加駅東口の草加駅前一番通り商店会の会長をやらせてもらっているが、そもそもの始まりは犯罪防止と活性化のために商店街に街灯を設置しようということだった。</li> <li>・ふれあい小路という道路も商店街に回遊性をもたせるために整備している。</li> <li>・埼玉県からも黒帯商店街にも認定されている。</li> <li>・その他、有線放送によるコマーシャルやたぬき通り商店街として地域の小学校にたぬきの絵をかいてもらったりという取り組みをしている。</li> <li>・商店街に特徴がある。</li> <li>・まず駅から近い。範囲としては商店街の端から端まで400mである。つまり商店街の中心に立てば、半径200m程度になる。</li> <li>・飲食店が非常に多い。71軒の商店会員中31軒が飲食店。全国チェーンの店舗や上場企業やNPO法人、学校法人も会員となっている。</li> <li>・草加小学校と幼稚園があり、スポーツクラブもあるので、広い範囲から商店街に来ていただける。</li> <li>・5月には春祭り、12月にはおたのしみ抽選会を開催。</li> <li>・市の各種事業にも参加している。</li> <li>・商店会の会長としてだけでなく、個人として私自身も家守のような立場で地域の活性化を努めてきた。</li> <li>・メガロス草加の南側にもともと親が旅館を経営していた。</li> <li>・前面道路はもともと狭かったが、道路拡幅のため市に採納して自転車も通行しやすいようにした。</li> <li>・そして、その通りを勝手に「菊水横丁」と名付けて、皆さんに愛着をもっていたくよう試みた。</li> <li>・また、商店街の目抜き通りをたぬき通りと名付けて、たぬきにまつわるストーリーを勝手に、しかし計画的に作ってPRを進めた。</li> <li>・結果として、30m程度の菊水横丁には、バーが1軒、スペインバルが1軒、ハンバーガー屋が1軒、和風居酒屋が3件、定食屋が1軒、カラオケバーが2軒、ジャズバーが1軒、カラオケバーが1軒、寿司屋が2軒、小料理屋が1軒、イタリア料理店が1軒、ラーメン屋が1軒ある。</li> </ul>

- ・女性が安心して来られる店が多い。女性が来るところには男性も来る。
- ・ただ単に店舗を誘致、開業することだけでなく自分の地域の特性はなにかと  
いうのをきちんと計画を立て、考えることが重要になる。
- ・商店会としては、北の方の草加小学校の方ににぎわいの拠点となるような  
場を作ることを検討していきたい。

中山  
わがザバー

- ・ある程度ターゲット層を決めて事業を行うということですが、もちろん、  
家守や実際に事業を行う人がターゲット層を決めていくことになると思うん  
ですが、実際に旧道沿道エリアに住んでいる方、不動産オーナーの方、そし  
て、この場にいる女性の方もなんですが、今後、どんな層をターゲットとし  
て考えているのか聞かせてほしい。
- ・実際に、これから我々が良いまちを作っていこうとするときに、最初にタ  
ーゲット層を決めた方がいいのではないかと。

上原  
委員

- ・個人的には何種類かを検討している。
- ・まずは地元大学の獨協大学の学生さん。どの程度の人数のボリュームがあ  
るのかは今後調べる必要がある。
- ・それと外国人の方。松原の松並木は十分地域資源としてポテンシャルがあ  
るし、浴衣の無料着付け体験などのイベントの開催、さらに、プロのカメラ  
マンさんもいて本格的な写真が撮れるなどのサービスを展開できたらいいの  
ではないか。
- ・基本的には障がい者とお年寄りと一緒に考えているところがあったが、実  
際に障がい者とお年寄りは波長が合う。あと、3歳未満の子供も、その方た  
ちと波長が合う。
- ・先日、特別養護老人ホームにボランティアに行ったが、お年寄りが子ども  
に何かを教えるとか、赤ちゃんとお年寄りの関係はループしているので、こ  
の方たちを集える場所も良いのではないかと。
- ・あとはスキルを持ったお母さんたちが多い。3名で始めたイベントが現在  
では15名で活動している。1回あたりに稼ぐ金額はまちまちだが、できる  
範囲で取り組んでいる。
- ・今後はボードステージや駅前の物産観光情報センターでも、イベントを行  
うことを予定しており、自分のグループから4名と市主催の3万円ビジネス  
講座（以下、「3ビズ」）から4名程度の参加が決定している。
- ・しかし、毎回イベント開催をするにあたって会場の手配に苦慮しているた  
め、常設としてイベントを開催出来たり、集まれる場があるといいのかと思  
っている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身は、縫い物が得意なのでミシン講座を行っている。その受講生に対して、内職の依頼をしたり、逆に自分が仕事を依頼されたりしている。</li> <li>・幕張や池袋や様々なイベントに参加しているが、そこからの人脈によって仕事が入ったりということも実際にある。</li> <li>・自分たちのような、本当に少額なビジネスを行っている者にとっては、イベントへの参加など、まちの中で発表をできる場がほしい。</li> <li>・そういったことを通じて、自分が対応できる規模などがわかるようになってくる。</li> <li>・自分としては、現在のところでは以上のような人物を思い描いている。</li> </ul>
清水 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上原委員の意見の中で、3万円ビジネスの話が出てきましたが、どなたか3ピズについてご説明いただけますか。</li> </ul>
松村 がザ-バ-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3ピズは「やりたいことをやることに変えよう」というテーマでやっている。ママになっても、やりたいことで月に3万円稼ごうということ。</li> <li>・先日、3ピズチームで家守塾に参加した際は、野口委員の物件をソウカゾクという、多世代が交流できるスペースにしようと提案した。</li> <li>・子どもを連れて働くのは、ものすごく大変。子どもをシェアウォッチするようなサービスを提供したり、スキルあるママが作った雑貨を販売したり、ギャラリーにしたりという提案内容。</li> </ul>
野口 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リノベーション関係で今まで色々と参加させてもらったが、正直言うと、まったくわからないという状況だった。</li> <li>・家業として物販を行っているが、自分自身でリノベーション事業を考えた時に飲食店を考えていた。同時に、飲食店は郊外の大型商業施設と比較し見劣りするのではないかと感じるようになってきた。</li> <li>・しかし、大型商業施設はあくまで施設内であって、そこにまちができるのか、コミュニティができるのかと考えるようになった。</li> <li>・今までの他の方の意見を聞く中で、コミュニティという言葉が多く出ている。コミュニティサービスビジネスという言葉やイメージが浮かんでくる。</li> <li>・それは物販でもなく、飲食でもなく、世の中色々な意味でのコミュニティがあると思う。</li> <li>・事業としては物販とか飲食はあるのかもしれないが、それにプラスアルファしてリノベーションまちづくりに求められているものは、様々なターゲット層に対してコミュニティサービスを仕掛けていくことがいいのではないかな。</li> </ul>
清水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面白い切り口が出てきたコミュニティサービスビジネスという一つの仮説</li> </ul>

委員長	<p>が浮かび上がってきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり、草加市がどんなまちになったらいいのかということを考えるには、本質に迫らなければならない。</li> <li>・とにかく意見を言うことから、そのような切り口につながるので、遠慮せずに意見を言ってほしい。</li> </ul>
今井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんの意見を聞いて、自分なりのターゲット層として考えているのは、若い人が草加市で結婚して、出産して、住んでもらうことで、草加市が盛り上がっていくのではないかと考える。</li> <li>・自分が商店を開業して10年になるが、そのたった10年の間にもどんどんマンションが建っている。</li> <li>・個人的にはさみしいという感覚だけだったが、マンションが建って草加市に住む人が増えたりしても、マンションにチラシを入れられなかったり、それぞれのマンション世帯が孤立している。</li> <li>・建ってしまったものはしょうがない。マンションの管理人さんを、例えばこの検討委員会に参加してもらうなど、まちの中に巻き込んだりするのはどうか。</li> <li>・これから遊休不動産のある商店街でマンションにするのは簡単だが、不動産オーナーの方にはあらためて考えてほしいというか踏み止まってほしいと思っている。</li> </ul>
瀬戸傍聴人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが幸せなまちというのがひとつの草加のまちづくりの目標だと思う。</li> <li>・まちづくりのターゲットとしては誰もが幸せになれるまちという意味では、誰もがターゲットになり得るということで上原委員に合いの手を入れたい。</li> <li>・今、上原委員がおっしゃったことは富山方式ということになると思う。</li> <li>・富山県というのは県土が広くて、子育て支援施設にしても、高齢者向けの施設にしても、どこに建てればもっとも効果的かということがなかなか探しづらい。しかし、まんべんなく各地域に作ると需要が十分にあるわけではなく施設の維持ができない。</li> <li>・そこで、県が考えたのは身障者のお子さんやお年寄りや、さらに保育や学童のようなものが必要な子どもたちを、すべて一緒にたに集めてしまうという方法。</li> <li>・そして、この富山方式というのはまさに空き家を使う。</li> <li>・つまり、このリノベーションまちづくりにおける家守の発想とまったく一致している。</li> </ul>

- ・草加においても、この富山方式というのを意識して事業を進めることがいいのではないか。
- ・上原委員の言うように、子どもとお年寄りの波長が合うということであれば、お互いの交流によりお年寄りの痴呆予防や子どもの情操教育に役立てることができるのではないか。
- ・長谷部委員の話の中にあったNPOさくらんぼが子育て支援を専門でおこなっているが、その地域の北端にはお年寄りのデイサービスもある。
- ・私が思うのは、なぜ同じエリアの中にあるのに、これらの交流がないのかということ。
- ・ぜひ、野口さんには宿屋のおやじさんのようになってほしいと考えている。その宿屋には若者が集まってきて酒を飲んで、将来を語り合う中で、これからの日本を引っ張るような人が生まれてきたら楽しい。
- ・とにかく、人と人とのつながりから何かが生まれてくるような、そういう場所が作れるよう知恵を絞って考えていけたらいい。

上林  
傍聴者

- ・最初にターゲット層ということでなく、草加について意見を述べたい。
- ・草加市は埼玉県にあって、埼玉県は「さきみたま」という神様の魂というのに由来している。
- ・草加市は、街道に「草を加えて」作ったから草加と言われている。
- ・草というのはススキを使っていて、時間と空間を守ると言われている。
- ・十五夜にススキを飾るとするのは稲の成長を願うというのがあるが、豊穡の神様としてハヤノヒメカミというのがいる。
- ・そのハヤノヒメカミに街道を守られている皆さんのお話を聞いて、すごく胸が熱くなるのを感じると同時に、子どもたちにも面白い話を聞かせてあげられるのではないかと期待しています。

新井  
ワザ-バー

- ・イラストレーターの仕事をしているが、今はイラストレーターが作品を届ける時代になったと感じている。
- ・カフェギャラリーコンバージョンの協力を得て、絵本の読み聞かせを企画している。
- ・先日の家守塾に参加させていただいたが、その中では盛り込めなかったアイデアとして、閉店時に閉まっているシャッターにイラストを描かせていただくなどのアイデアも出ました。
- ・クリエイターが集まるまちというのがたくさんあるが、実感としてはクリエイターの持ち出しで維持していることが多いような気がする。クリエイターも稼げなければ食べていくことができない。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイターのいいところはファンがいること。クリエイターが関わっていればファンが来るという利点を活かしたことをできたらと考えている。</li> <li>・この集まりで何かをする時にも、クリエイターの存在を思い出してもらえるとありがたい。</li> </ul>
長谷部 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い女性や独協大生を大事にしなければならないと思っている。</li> <li>・獨協大学があるということは学園都市という側面を持っているということ。</li> <li>・獨協大学から旧町の方へ来てもらうということも想定すると、現在、遊歩道が整備されている伝右川沿いでの水と緑を活かして、綾瀬川の方へ、そして旧町の方へ人の流れを作り出すことや、さらに草加松原の松並木との回遊性を持たせることができると良い。</li> <li>・ぜひ、伝右側を活かしたまちづくりというのを行政側でも検討していただければ、より旧道へのアクセスもよくなって、本日のみなさんからあった話も事業としてうまくいくのではないかと考える。</li> </ul>
清水 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は地元の獨協大学からもお越しいただいている。ぜひ、ご意見を願いたい。</li> </ul>
米山 ワザ-バー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は5名の学生を連れてきた。</li> <li>・この5名は富山県立山町の地域活性化に取り組んでいる学生たちで、先々週には富山県でフィールドワークを行った。</li> <li>・富山県で学んだものが地元草加で生かせればという気持ちで参加した。</li> <li>・今までの意見の中にも獨協大学を絡めてというものがあり、非常にありがたいと感じている。</li> <li>・伝右川という話もでたが、実は私のゼミでは「伝右川の再生に向けた支援プロジェクト」というものを立ち上げている。昨年は学園祭にて伝右川再生会議というものを行った。住民の方々からも1回だけでなく、今後も継続して会議を開催してほしいというお言葉もいただいた。今年も11月に会議を開催する予定となっている。</li> <li>・こういった様々な情報が入ってきて、我々の中でリンクするものがあり、非常にうれしい気持ちで聞いていた。お互いに何かに触発されて、そこからいいアイデアが浮かんで、つながりの中で大学、まち、住民との交流が活発になっていくようなことがあればいいなと思う。</li> <li>・大学も地域貢献、社会貢献ということで関心を持っておりますし、何かのときは学生を動員することも可能。</li> <li>・大学でもこのような会議も可能。ぜひ、一緒にやっていければと思う。</li> </ul>

<p>近藤 (学生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は長野県松本市に実家がある。</li> <li>・私は地域の方々が活躍できる場所ができないかということで、自分の経験で思い出したことがある。</li> <li>・今年で89歳になる私の祖母は裁縫が非常に得意で、自分で作った巾着や財布などを松本市内にある共有スペースのような場所で展示して、気に入った方が値段をつけて購入できるという場所に出展している。</li> <li>・祖母は、そこで自分の作ったものが売れることが非常にうれしいと、夏休みに帰省した際に話していた。</li> <li>・足が悪くて外出も多くはできない祖母ではあるが、家で裁縫をすることで社会とのかかわりを持てるということが、すごいいいなと思いました。</li> <li>・そのように直接でなくても、お年寄りが家に居ながらも地域との関わりが実感できるようなまちに草加がりノベーションまちづくりを通じてなればいいなと思う。</li> </ul>
<p>清水 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生さんにはぜひ今後も検討委員会に参加いただいたり、逆にこちらから大学側に働きかけたりなど、積極的に交流できればと思う。米山先生、よろしくお願いします。</li> </ul>
<p>米山 ワザ-バー-</p>	<p>よろしくお願いします。</p>
<p>堀内 ワザ-バー-</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は草加市の文化財保護審議会に所属している。</li> <li>・草加もまちには宿という言葉がありますが、今までの話を聞いていると新しい形を作ろうという意見が多いのですが、草加の伝統や歴史あるものも活かして形を進めてほしい。</li> <li>・自分は建築家の端くれであるが、草加の宿場にいる方が本当に自分たちのまちを自分たちで守ろうとしているのかということは草加の建築物の研究を始めてから思っている。</li> <li>・ある日突然、駅前のシートが外れると新しい建築物が現れて、驚くことがあるが、もう少し自分たちのまちに誇りを持ってもらいたい。</li> <li>・もともとは草加出身ではないが、30年も住んでいれば愛着を持つ。</li> <li>・草加には宿ということで蔵もたくさんある。しかし、自分が見せてもらったところでは、多くが物置として利用されてしまっている。昔のように米が蓄えてあるというようなことはない。</li> <li>・先日の、今様・草加宿事業においても、たくさんの蔵を調査させていただいたが、それらの蔵の点と点を結んでいきたい。</li> <li>・千葉県の方州関という市があって、そこには当時作った蔵が3つか4つあ</li> </ul>

るのですが、そういったように古い建物をうまく活用してもらいたい。

・また、草加の宿場町だけではなく周辺の村々があって草加の宿場があるということを認識してほしい。村々の農村風景も今ではなくなり、それらを子どもたちにどう伝えていくかということを考えなければならない。

・つくづく思うのは、子どもたちに誇れるものを残さなければならないということ。

傍聴者

・京都にある自分の実家は国の指定で、勝手には瓦の一枚も変えられないような家に生まれて育った。

・去年、その実家が店舗になった。

・しかし、自分としてはその家が残っているだけでも良いと思っている。

・草加には豪農が多くいたと聞いている。しかし多くが税金の関係だと思うが、ある日突然大きな屋敷林などがなくなって、マンションになっている。

・マンションになるところは悪いことではないが、結局、市役所がそれらを大事にしないからではないか。そういうものはなくしてはならない。いいものは残さなければいけない。

・松原団地のようなものはたった50年で建て替えをしなければならない。しかし、昔の家は100年経っても、200年経っても、1000年経ってもあり続けている。

・いいものは大事にしなければいけないことと、住吉商店街の東福寺のところには石の蔵があります。ガイドボランティアの勉強をしているので、この石の蔵の価値というものを伝えている。

・ぜひ、このような意見があるということも覚えておいてほしい。

平野

・先ほどのお話でもあった通り、草加には昔ながらの蔵というものがある。

傍聴者

そのような歴史的な多々ある。

・一度、その蔵のひとつを取材させてもらったことがあるが、そのご当主の方が大学を卒業したご子息に「蕎麦屋に修行に行け」と話したそうです。というのは、その方はその蔵を利用した商店をやりたいとのことだった。

・結局、そのご当主の想いは実現しなかったのだが、そのような想いはこのリノベーションまちづくりの家守という考え方で活用できないかと考えている。

・自分は松原団地の住民であるが、草加市の歴史ある建築物や文化遺産を大切にしたいと考えている。そのようなものを活用して商店をやってもらったり、みんなが集まれる場ができるのであれば、私は出資してもいいと思っている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分はそのような形で市民として、この事業を支えて、いいものを未来に残していきたいと考えている。</li> </ul>
小野 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんの意見に対しては同感しかない。</li> <li>・個人的には三大地場産業をどう活かすかというように考えている。</li> <li>・自分としては草加らしいものを通して、草加のコミュニティを作れるかということを考えている。今までの意見はもちろん賛同するところだが、それらとどう三大地場産業を結び付けられるかということも考えたい。</li> <li>・先日の「そうか 実践！家守塾」に参加してから一週間考えているが、なかなか柱となるものがないと、ビジネスとして継続していくことができないと感じている。</li> <li>・本日もアイデアは持ってきてはいるが、今後発表させてもらいたい。ぜひ、興味を持っていただけるようなプレゼンができるよう準備しておきたいと思う。</li> </ul>
清水 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草加の三大地場産業という話がありましたが、挙げられる方は。</li> </ul>
傍聴者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注染、革製品、せんべい</li> </ul>
清水 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業は地域資源として本当に大事になります。</li> </ul>
傍聴者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分はさいたま市の住民で、店舗や住居のDIYリフォームの手伝いをし、このリノベーションまちづくりについてフェイスブックを見て来た。</li> <li>・県の中央の人間としては、県の東側の越谷市ではレイクタウンが、春日部市はクレヨンしんちゃんでがんばっているという気はするが、あまり関心がない。</li> <li>・その理由としてはレイクタウンでは人情というかコミュニケーションがないし、歴史もないし、わざわざ行く理由がない。</li> <li>・しかし、そのようなある意味ヒール（悪）役がある中で、草加がこのような取り組みを行っていくことには意義がある。</li> <li>・正直、自分には草加市は治安が悪いというイメージがある。しかし、本日参加して、皆さんの話を聞いているといいまちだと思った。夫婦とかでまちに来て、いい店を散策したりできたら良いと思う。</li> </ul>
木村 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな方々の意見を聞いて、草加もおもしろいまちになるなと感じている。</li> <li>・自分は事業者として、この検討委員会に出席させていただいている。</li> <li>・不動産業に携わる者としては、貸し手と借り手という形を考えた時、実は</li> </ul>

不動産業としては仕事とつながるものと考え。ただ我々がビジネスとして貸し手と借り手の仲介、コーディネートをしているが、いろいろな方からボランティアやビジネスという形で草加のまちをよくしたいという意見が聞けたことは非常に参考になった。

- ・不動産業界の中でもいろいろなことをやりたい若手や、全国から草加で事業をやりたいと来た者がいて、草加と三郷と八潮で宅建業協会埼玉東支部というチームがある。

- ・できたら、そのチームの中から家守のような事業を行う者が出てくことを期待している。不動産オーナーとの付き合いや借主さんとの付き合いも業界としてあるので、できたら業界の方も交えてこの事業を進めていければと思う。

- ・私自身も草加に生まれて育っている。少しでもこの草加が良くなればいいと思っている。今までは行政主導のまちづくりということで、私自身も草加駅東口の再開発には協力してきたが、それにはいい面と悪い面があって、そのことも踏まえながら新しいまちづくりをしていきたい。

氏家

- ・自分には夢があります。

傍聴者

- ・自分は子どもを二人連れて草加にやってきた。そして、子どもがやっと自立する年齢になって、自分の起業という夢に向かうことができるようになった。

- ・若い時から洋裁をやっているが、海外の製造業の影響を受けてなかなか仕事が減っていったが、資格があるので自宅でする範囲で仕事をしていた。

- ・経験や知識を活かしつつ、女性の視点を活かして仕事がしたいという想いではいるものの、安い海外製品に押されているが、メイドインジャパンへの需要はある。しかし、それも企業に属さないでやるということは非常に難しい。

- ・以前は「洋服作ります」と言っても、安い製品があふれている中では注文がなかったが、10年くらい前からペット用の製品の注文が入るようになった。今ではペット用製品の注文をくれる方もいる。

- ・子どもが大きくなるとイベントなどに行く機会がなくなる。しかし、ペットというつながりであれば、年齢や子供の有無などに関わらずつながれることができる。

- ・自分自身、どのような立場で関われるかわからないが、ぜひ仲間に入れてもらいたいと思う。

清水

- ・まだまだたくさんの方が意見を言いたいと思いますが、次回以降に発言し

委員長

てください。

・また、本日は市の方の発言がありませんでしたが、本日のみなさんの意見を聞いて、皆様なりに課題を考えてみてください。

・結構おもしろい課題のヒントがあったと思います。

・例えば、長谷部さんの話にあった「安心して歩けるまちづくり」とはどのようなものか。それは、道路部分をどうするかということを考えれば達成できるかもしれません。それは行政でしかできないことです。

・本日の話の中には、本質的な草加のまちづくりにつながるヒントがたくさん潜んでいたのではないかと考えています。

・このような会議を今後も重ねていながら、本当に草加のまちを少なくとも100年続くまちとして続けていくためには、今、何をしたらいいか考える必要があります。

・そして、今住んでいる人たちが、どうしたら楽しくなるかを考えることだけです。

・そうかのこれからのまちづくりを担う方々には、委員だろうがオブザーバーであろうが関係ありません。ぜひ、これからも活発な意見交換をしていければと思います。

以上